現在の景気：県内景気は、緩やかな持ち直し傾向が続いている。非製造業では、節約志向などの影響が出ているが、観光や飲食などの対面型サービス業の回復が続いているほか、百貨店の販売も底堅く推移している。製造業では、生産活動に持ち直しの動きがみられる。この間、建設需要は、住宅をはじめ民間部門に建設コスト上昇や人手不足の影響がみられるが、交通インフラ整備などの公共工事請負額の増加を背景に、総じて底堅く推移している。

3 か月程度の見通し：非製造業は、物価高や人手不足の影響を受けつつも、対面型サービス業を中心に持ち直しの動きが続くとみられる。製造業では、持ち直しの動きが続くとみられる。

個人消費：①底堅い。②11月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比1.1%増と2か月ぶりに前年を上回った。11月に入り気温が低下し、動き出しが遅れていた秋冬物衣料品の販売が活発化した。12月も、化粧品を中心に売上は堅調に推移している模様。11月の自動車登録台数は、前年同月比6.2%減と4か月連続で前年を下回った。普通車（同5.5%増）が増加したものの、人気車種の新车投入効果で押し上げられた前年の裏が出たことなどから、軽乗用車（同15.0%減）、小型車（同17.3%減）が減少した。

住宅建築：①一進一退。②11月の新設住宅着工戸数は前年同月比26.1%増加し、2か月ぶりに前年を上回った。分譲マンション（同3.1倍）、貸家（同31.4%増）が大幅に増加した。

設備投資：①堅調。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、11月の工事床面積（年度累計）は前年度比2.4%減、工事予定額は同22.9%増であった。建設コストの上昇から設備投資案件を見送ったり、人手不足から着工が遅れたりする事例があることから、工事床面積の前年割れが続いている。一方、工事費予定額は、単価上昇から前年を上回っている。ひまわりベンチャー育成基金（調査研究部門：千葉経済センター）によるアンケート調査*では、24年度設備投資計画（9月末時点）は、23年度実績対比26.6%増となった。

公共工事：①増加。②11月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同月比11.9%増加した。独立行政法人等（同68.6%増）、市町村（同15.5%増）、国（同9.9%増）、県（同4.9%増）いずれも増加した。

輸出：①増加。②11月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比18.9%増と13か月連続で前年を上回った。成田空港は、半導体等製造装置（同62.1%増）、科学光学機器（同24.2%増）が増加し、同23.2%増と12か月連続で前年を上回った。千葉港は、石油製品（同50.9%減）の大幅な落ち込みにより、同13.2%減と3か月連続で前年を下回った。木更津港は、鉄鋼（同23.2%減）の減少により、同22.2%減と2か月連続で前年を下回った。

生産活動：①持ち直しの動き。②10月の県鉱工業生産指数（季調済、2020年=100.0）は、104.2（前月比1.0%上昇）と2か月ぶりに上昇した。化学工業（同5.2%低下）が低下した一方、汎用・業務用機械工業（同28.1%上昇）、非鉄金属工業（同20.4%上昇）が上昇した。

観光：①底堅い。②県内の観光・宿泊施設は、好調な入込を続けている。新年を迎え、県内各地の年越しイベントが賑わった。成田山新勝寺（成田市）は多数の初詣客が訪れ、境内に長い列ができた。山頂・離島を除き日本で最も早く日の出が見られる犬吠埼（銚子市）には、約6万人が集まった。

雇用情勢：①人手不足感が強い状態が続いている。②11月の有効求人倍率（季調値）は1.02倍で、前月と同率であった。ひまわりベンチャー育成基金のアンケート調査*における雇用実績BSIは、大幅な「不足」超が続いている。

【トピックス】

- 千葉県や国土交通省、NEXCO 東日本などで行く「交通円滑化対策検討会」は、東京湾アクアラインの料金改定を了承した（3日）。土日・祝日の上り線のみを設定されていた時間帯別の変動料金制を、下り線に対しても導入し、料金の変動幅を現行制度より拡大する。新料金は2025年4月より導入予定。
- 医薬品製造業のペプチドリーム（神奈川県）および傘下のPDRファーマ（東京都）は、かずさアカデミアパーク内に放射性医薬品工場を新設すると発表した（17日）。総投資額は約100億円で、2028年10月の操業開始を目指す。
- DIC（東京都中央区）は、DIC川村記念美術館（佐倉市）を4月に休館し、保有作品を減らしたうえで東京都内に移転する方針を明らかにした（26日）。

* 調査実施時期：24年9～10月。有効回答数189社。